

豊橋の豊かさを未来へ継承するために

<http://toyo.pbeins.net/>

6月定例会市議会

《芸術文化交流施設整備事業》 駅南地区の大規模施設として注目されている、「芸術文化交流施設」(芸術ホール)のPFI契約が6月議会にはかられました。総務委員会での審議を経て、6月17日の本会議で賛成多数により可決承認されました。PFI契約とは、施設の整備費及び維持管理費(15年間)を含むもので、この契約の主な内容は次の通りです。

- ・ 施設規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、地下1階地上4階
 - ・ 主ホール 固定席797席、立見席26席
 - ・ アートスペース 移動客席261席
 - ・ 創造活動室 7室(稽古場、音楽練習室等として利用)
 - ・ その他施設 研修室、市民活動室、制作工房等
 - ・ 契約価格 62億1500万円(百万円未満省略)
- オープン予定時期は平成25年5月



芸術文化交流施設建設予定地

【答弁】利用者の利便性・快適性、豊橋のランドマークとしてのデザイン、すぐれた観賞環境を実現する機能、長期的な運営視点と

になるが、その主な理由は何か。
【質問】総合評価一般競争入札の結果、参加3グループの中で、最も高額な入札額を投じたグループが落札している。提案内容の評価点が、7億円もの入札価格の差を逆転するものであったということになるか。

・ 契約期間 事業契約締結日から平成40年3月31日まで

総務委員会における豊田一雄の質疑要旨は次のとおりです。

【質問】今回評価された効率的・効果的な提案というものが、本当に市民にとって大きな意味を持つものなのか。過剰な機能が評価されたものではないのかという危惧もある。



【答弁】落札者の提案は、公演の規模の変化に十分対応できるものであった。また、明快で、連動した配置、動線計画を実現したことが挙げられる。長寿命化機器の積極的な採用や、将来の設備改修を想定した設計画など、契約期間の15年だけでなく、その先の20年、30年を見据えたロングライフ提案がなされており、維持管理において他よりコスト縮減が図られるなど、将来の負担軽減につながるものとして、審査委員会から高く評価されたものである。

《一般質問》6月7日から三日間行われた一般質問では19名の議員が登壇し、それぞれ市の考え方をただしました。以下に豊田一雄の一般質問での質疑応答の要旨を記します。

「市電など軌道型公共交通の充実」

【質問】①豊橋駅を中心にJR、名鉄、豊鉄（渥美線、市電）が放射状に軌道型公共交通が走っている。ところが、西部方面には市民病院、豊橋西高校、総合体育館など、運転免許証を持たない人も多く利用する施設がありながら、バスしか通っていない。市電など軌道型公共交通の整備の必要性をどう考えるか？

②本市の公共交通は全て民間で運営されており、充実していくためには、ある程度の利用者があることが重要なこと。パーク＆ライド、パーク＆サイクルの促進に向け、駐車（輪）場の充実にどのように考えるか？

【答弁】①市の西部方面は路面電車の延伸を考える上での一つの候補であると認識している。しかしながら、用地確保や多額整備費用、将来的な維持費といった多くの課題がある。現段階では事業者による軌道の延伸は非常に難しいと考えている。今後、走行空間の整備方法や国などの公的支援制度、また持続可能な運営形態の可能性などを調査研究する中で、延伸の可能性について検討していきたい。

②現在、主要な駅や電停には、行政、鉄道事業者などにより一定の駐車場や駐輪場が整備されている。新たな施設を整備する場合、適切な設置場所の選定と用地の確保が必要となる。ことから、具体的な設置場所や整備の手法、実施主体について、鉄道事業者とも調整するなかで勉強していきたい。

【まとめ】佐原市長はマニフェスト中で「市電のコロナ延伸と医療センター延伸についての可能性



検討調査を実施」と言っている。市内西部方面、中央部のココロ方面、合同庁舎方面、東部の医療センター方面など、路面電車で結ばれるようになれば、新しい町づくりの可能性が考えられる。市電の延伸ということについては、企画から実現まで大変時間がかかるわけで、景気がよくなつてからでは手遅れになる。今こそ夢を描き始めるべき時期と言える。

「総合動植物公園のあり方」

【質問】総合動植物公園には毎年一般会計の1%もの税金を投入している。これは他都市と比較して突出した数値である。にもかかわらず市民のためのレジャー・教育施設なのか、観光資源として多くの観光客を誘引する存在なのか、方針が明確でない。今後、その方針をどのように考え、施設を選択と集中をはかつていくのか。

【答弁】施設や設備の老朽化などが進み、修繕や改修工事などの維持管理経費も増大している。新規の施設整備や遊具導入も非常に難しい状況がある。そこで、これまでの基本方針に加え、より広範な地域からの観光客も誘引する施設など、基本方針を再構築、明確化し、園内各ゾーンにおける施設や設備の再整備をはかつて行きたい。

「平和・交流・共生の都市宣言推進計画」

市政百周年を契機につくられた「都市宣言」を推進するため、昨年3月に推進計画が策定された。それから一年後の進捗状況を確認。質問を通して、都市宣言の実践により、日本人の子ども、外国人の子どもたちがともに夢を持てる社会の実現に向け、一層の努力を訴えた。

総合計画調査特別委員会

昨年5月に発足した総合計画調査特別委員会の第3回委員会が4月27日に行われました。平成23年度からスタートする第5次総合計画策定状況報告に対する、豊田一雄の質疑応答は以下の通りです。

【質問】10年前とは時代環境が大きく変わっているにもかかわらず、まちづくりの基本理念を、早川市長の下でつくられた第4次総合計画と同じ「ともに生きるまち」にしようとしている。どのような検討が行われた結果、第4次と同じ基本理念にしようとしているかについて伺う。

【答弁】「ともに生きるまち」は、時代の趨勢に影響を受けるものではなく、私たち豊橋市民が共通して認識する普遍的な理念であると認識している。今回、市民自治やス

トックの活用に対する意識の高まりを受けて、役割と責任の自覚や限られた地域資源の活用に関する表現を付け加えている。

【質問】「目指すべきまちの姿の考え方」や「目指すべきまちのすがたのイメージ」は内向きな話ばかりであり、東三河や愛知県、中部圏などに対してどのように貢献していくかということが全く示されていない。広域的に本市がどのように互恵関係を築いていくのかについて示すべきではないか？

【答弁】地方主権時代が展望される中、これまで以上に自立した行政運営が求められるとともに、国県や他都市との連携・協力関係を築くことの意義は益々大きくなると認識している。この認識については、総合計画の中で示す必要があると考えているが、記載箇所については「目指すべきまちの姿」を含めて現在検討を進めている。

豊橋みらいニュース

<http://www.geocities.jp/sigimirai/>

- 5月14日に役員改選を行い、新たに以下の体制となりました。
会長:佐藤多一 副会長:坂柳泰光 政調会長:豊田一雄
- 6月議会での一般質問(豊橋みらいは3名が質問)
佐藤多一議員
 - 中・長期財政見通しと財政計画について
 - 三河材の利用促進について

- AEDの設置状況と普通救命講習について
杉浦正和議員
- 食糧安全保障と農業振興を両立させる取り組みについて
豊田一雄議員
前述のとおり

※月2回程度、メールマガジンを配信しています。ご希望の方は、下記ホームページでアドレス登録をお願いします。

<http://toyo.pbeins.net/mm.html>